

街角とあなたをネットする暮らしと文化の情報紙

まちかど

● 荏原第一地域新聞 ●

第199号

令和元年(2019)10月発行

発行・事務局

○荏原第一地域センター○

小山3-22-3 (〒142-0062)

TEL 3786-2000

FAX 3786-5385

花めぐり

ジョウロウホトトギス



ホトトギスはユリの仲間、日本には10種類ほどが生えています。ジョウロウホトトギスは四国の太平洋側に特産する種類で、山地の溪谷の湿った岩場や崖に見られます。長さ5cmほどの釣り鐘型で明るい黄色の花を咲かせます。花弁は内側に赤紫色の斑点が多数あり、厚くてロウを塗ったような光沢があります。葉は幅広くて光沢は少なく、毛が生えています。

茎は長さ40~100cmほどになり、弓なりに伸びて垂れ下がるので、鉢で育てる場合は様子を見て支えが必要ですね。

湿った岩場に咲くような花ですので、日陰に置き一日に何回か霧吹きで湿気を与えてあげましょう。

(荏原二丁目町会・伊藤茂実)

品川はシナモン
巷で人気のデザインマンホール



武蔵小山駅前に設置されたマンホール

品川区では第3弾となるデザインマンホールが、9月4日（水）に武蔵小山駅のバスロータリー前に設置されました。

このデザインマンホールは観光促進を目的に設置され、すでに完了しているものを含め、合わせて区内7カ所に設置される予定です。

武蔵小山のマンホールはサンリオの人気キャラクター「品川紋次郎」とたけのこのデザイン。サンリオといえ「シナモロール」（通称シナモン）が品川区の観光大使に任命されており、第1弾・第2弾のマンホールにはシナモンが描かれています。そして、かつて武蔵小山がたけのこの名産地であつたことからも、背景にはたけのこのデザインが採用されています。

たことから、背景にはたけのこのデザインが採用されています。設置場所は武蔵小山駅西口を出てすぐの場所です。お立ち寄りの際はぜひご覧ください。（事務局）

【デザインマンホール設置場所】

第1弾 大井町駅付近

第2弾 大井ふ頭中央海浜公園（ホッケー競技場付近）

シリーズ 品川平塚剣友会① 〜成り立ち〜

皆さん、品川平塚剣友会をご存じですか。品川平塚剣友会は、子ども中心の剣道教室で、荏原平塚学園の地下二階の第二アリーナで、子どもたちが日々汗を流しています。

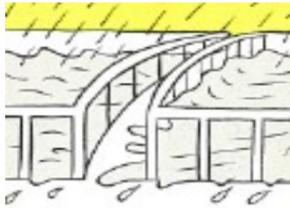
昭和59年に当時の先人たちのご尽力により、品川区立平塚小学校（現スクエア荏原）に、未来を築く子どもたちのため、剣道を通じて育成指導を目的に『品川平塚剣友会』が誕生しました。奇しくも私もその仲間の一人として汗を流しておりました。当時の平塚小学校校長・長嶋俊子先生をはじめ、元校長、鈴木忠先生、山田功先生の諸先生たちのご尽力で、教士七段・中野良夫先生を師範にお

防災☆ワンポイント

(東京都発行「東京防災」より)

●集中豪雨

集中豪雨から身を守るために



河川や用水路に近づかない

局地的な集中豪雨が発生すると、河川や用水路は水があふれ、激しい水の流れることがあるので、絶対に近づかないようにしましょう。



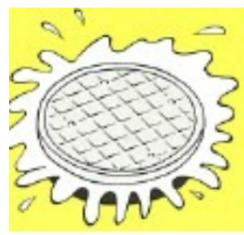
地面より低い道は通らない

立体交差する道路で、路面の高さが前後と比べて低くなっている道（アンダーパス）や、歩行用の地下道路は、集中豪雨が発生すると冠水の危険性があるので通らないようにしましょう。



地下・半地下から避難する

地下室や半地下家屋（地面より掘り下げられた家）は冠水しやすく、水圧でドアが開かなくなって逃げ遅れる危険があるので、2階などの安全な場所へ避難しましょう。



冠水している道路は危険

冠水している道路は、マンホールや側溝のふたが外れて転落する可能性があるので危険です。やむを得ず冠水箇所を移動する場合は、傘などで地面を探りながら移動します。



第二回目の少年剣道大会の様様

平成26年には全日本剣道連盟より『少年剣道教育奨励賞』を頂くことができました。とても光栄なことです。同時に創立30周年をお祝いし、剣友会主催で少年剣道記念大会を開催し、感銘を受けました。

まもなく創立35周年を迎えようとしております。最近になり僅かなりにお子さんが増えてきました。指導する側に立っていても、教わることはあり、日々精進しております。

多くの指導者の先生方にご参集頂き、幼児から大人まで気持ちの良い汗を流し、剣道を楽しみながら励んでおります。

(荏原三丁目町会・池田晴夫)

トピックス

大人の趣味 国産オオクワガタ

子どもの頃夏休みの自由研究で、クワガタの観察をしたことがある男の子は多いの

ではないでしょうか。オオクワガタは子どもものかと思っておりましたが、昨今は大人のマニアが大勢だそうなんです。

近所にオオクワガタの養殖を生業としていらっしゃる方がおられます。趣味と実益で一年を通して、北は北海道から南は沖縄まで、インターネットオークションで販売をされている養殖家の嶋原さんにお話しを伺いました。

養殖は12年前からご夫婦で始められてのことです。5月に産卵、6月に孵化して幼虫に。7月に菌糸（キノコ）で育てて、培養してあるオガクズ（幼虫の餌）を3回取り換えて、次の年に成虫になるのが6月から7月。販売するのは10月位から。通年販売するが、一番売れるのは10月。大半は予約販売（個人）が多く、夏は昆虫ショップに卸すのが多いとのこと。

国産オオクワガタは、30年かけて交配を繰り返して今の大きさになっているとのこと。写真のオオクワガタは嶋原さんの大事な秘蔵の子の一匹で、大きさが90・8ミリもあり、日本でも5本の指に入る大きいオオクワガタでした。

(小山二丁目東部町会・山内静子)

